

生活支援体制整備事業における 第2層生活支援コーディネーターの取組について

資料6

第2層協議体 (A地域～日常生活圏域：豊岡，東旭川・千代田，東光)

- ・東光をよくするための語ろう会（東光圏域）
- ・東旭川・千代田をよくする作戦会議（東旭川・千代田圏域）



○主な参加者

地域住民（地区社会福祉協議会、地区民児協、地区市民委員会、ボランティア活動者）、障害福祉サービス事業所、介護保険サービス事業所、学校、行政など

○内容

- ・グループに分かれて「身近に困りごとを抱えている人・地域の課題」と「それぞれの立場でできること・アイデア」について出し合う
- ・出し合った課題とアイデアのマッチングを実施

○テーマ

- | | [課題] | [アイデア] |
|------------|--------------------------------|----------------------------|
| ・東旭川・千代田圏域 | 「認知症や障がいの普及啓発」 「高齢者世帯のごみ出し」 | ×「中学校の活用」 ×「中学生による地域活動」 |
| ・東光圏域 | 「高齢者などの活躍の場」 | ×「作品の展示会」 |

第2層協議体

(A地域～日常生活圏域：豊岡，東旭川・千代田，東光)

(事業・活動の実績)

○良かった点

- ・地域住民をはじめ、福祉事業所、学校、行政など様々な所属の参加者が意見交換をすることができ、地域の活動や資源について幅広く共有することができた。
- ・福祉事業所から課題として「障がいや認知症の理解・普及啓発」について、中学校からアイデアとして「学校の活用」について意見が挙がりマッチングに至り、学校を会場とした障がいや認知症のある方の作品の展示会開催が実現した。（東旭川・千代田圏域）
- ・地域住民から課題として「高齢者のごみ出し」について、中学校からアイデアとして「中学生による地域貢献活動」について意見が挙がりマッチングに至り、市民委員会と中学校間による「中学生による通学時の高齢者世帯のごみ出し」にかかる協議が実現した。（東旭川・千代田圏域）

○難しかった点

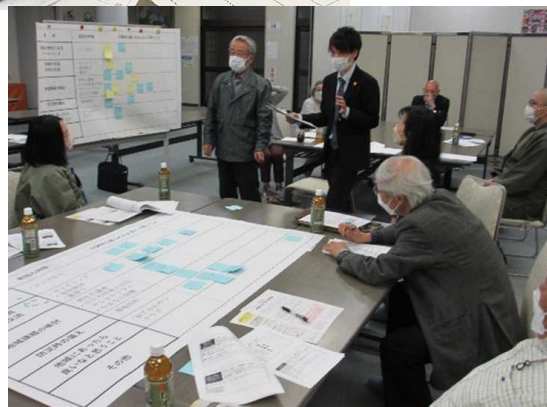
- ・「東旭川・千代田をよくする作戦会議」では、圏域が広く地域性が異なることから、挙げたアイデアの実現までには、各地区でコアメンバー間での協議が必要である。

(総括)

- ・東旭川・千代田圏域では、米原瑞穂地区で「地域活性化を目指した企画」、千代田地区では「子どもの居場所」が意見として挙げられたため、各地区で協議を進めていきたい。
- ・東光圏域では「旭川信用金庫を会場とした地域の展示会」を3月に開催予定であるため、これをきっかけとし「地域住民同士の交流」などほかのアイデアの実現を目指していきたい。

共助の居場所づくりに向けた取組 (B地域～日常生活圏域：中央，新旭川・永山南，永山)

- ・西地区コアメンバー会議
(西地区多世代交流この指と～まれ実行委員会)



○主な参加者

地域住民（地区市民委員会、地区社協、地区民児協、ボランティア活動者、認知症サポーター、保護司、新町おやじの会、新町っ子土曜クラブ、成田山眞久寺）、障害福祉サービス事業所、介護保険サービス事業所等

○目的

西地区在住の子どもから高齢者まで安心して住み続けられる地域をつくることを目的に「顔の見える地域づくり」の一環である、昔遊びを通じた多世代交流を実施し西地区の地域福祉活動を推進する

○検討内容等

西地区市民委員会内の地域住民（子どもから高齢者）を対象とし「めんこ・お手玉・紙相撲・あやとり」などの昔遊び（幅広い層が共通に楽しめる内容）をとおした継続性のある「地域交流」と「居場所づくり」に向けた地域関係者との検討を実施

共助の居場所づくりに向けた取組 (B地域～日常生活圏域：中央，新旭川・永山南，永山)

(事業・活動の実績)

○良かった点

- ・多世代で交流し、子どもから高齢者までつながりを持つことができる活動について、西地区の住民や関係者が主体となり、住みやすい西地区の創造に向けて一体的に協議・検討を進めることができた。
- ・西地区の地縁組織・団体・住民のみならず、地区内にある福祉事業所などとの連携も始まり、バックアップ体制が整ってきたことで、メンバーのモチベーションの向上や一体感が強化された。

○難しかった点

- ・子どもから高齢者までを対象とした交流の場の開催ということもあり、コロナ禍でも安心して交流できる活動内容を慎重に検討を進めた結果、交流の場の開催が次年度（令和5年度）の夏頃開催予定となった。
- ⇒コロナ禍における活動推進について各個人・団体で思いや考え方の違いがあり、方針のすり合わせや調整が難しいと感じた。

(総括)

- ・西地区では、「多世代交流をとおしたつながりづくり」をキーワードに住みやすい西地区について検討を進めてきたことから、引き続き地域関係者と検討や準備を進め令和5年度に「昔遊び」を通した多世代交流を開催し定期的な運営に繋げていく予定。
- ・多世代交流開催にあたり令和5年度は「旭川市地域まちづくり推進事業負担金」（困っている人たちの共助の居場所づくり）を活用し活動における経費等の負担軽減を図り地域の特性に合わせた柔軟な事業展開を目指していく。

ボランティアの養成

(C地域：日常生活圏域：末広・東鷹栖，春光・春光台，北星・旭星)

・北のほし☆ボランティア養成講座



- 平成30年より始まった講座。
- 市内の福祉専門職や相談支援に携わる職員等が連携し、実践的なボランティアの知識や心構えなどについて学ぶこと、参加者同士がつながる場所を目指し、毎年開催。
- コロナ禍で、この3年間は福祉施設での実習ができなかった。
- 今年度は新たな人材発掘を目的として、ボランティアに興味はあるけれど、講座には参加したことがない方、過去に講座を受講したけれど、実際に活動したことがない方に向けた「はじめて編」としての講座を開催。

ボランティアの養成

(C地域：日常生活圏域：末広・東鷹栖，春光・春光台，北星・旭星)

(事業・活動の実績)

○良かった点

過去の卒業生が、旭川市社会福祉協議会ボランティアセンターへの登録を含め、様々な形でボランティア活動に参加しており、一部では参加者同士の横のつながりもできている。

また、卒業生が講師となることで、参加者が活動を身近に感じることができる。

○難しかった点

コロナの影響で、福祉施設や地域のサロン等でのボランティア体験が行えなかったため、座学のための講座となり、参加者の意欲向上や活動につながるまでのモチベーションの維持が難しい。

(総括)

初心者向け、経験者向けなど、対象者に合わせて参加者がモチベーションを維持できるように継続的な講座を開催する必要があるものの、withコロナの中で内容や方法など、考えるべき課題は多い。

児童を対象とした取組 (D地域：日常生活圏域～神居・江丹別，神楽・西神楽)

・すずかけ冬休み食事・学習サポート事業



○目的

働く親にとって、平日より子どもの長期休みの負担が大きいとの調査結果があることから、すずかけを活用し、冬休み中の「食事」と「学び」を支援することを目的として開催。

○日時

- ・令和4年12月26日，27日
- ・令和5年 1月10日，11日，12日
- ・各日 9：00～15：00

○対象

神楽岡小学校児童

○内容

- ・9：00～11：30 昼食準備
- ・11：30～12：30 昼食
- ・12：30～15：00 学習と遊び

児童を対象とした取組 (D地域：日常生活圏域～神居・江丹別，神楽・西神楽)

(事業・活動の実績) 参加児童 延べ48名・ボランティア活動者 延べ29名

○良かった点

- ・参加児童からは「休み中に友達に会えて嬉しかった」という声や、保護者からは「預かってもらえることで安心感があり、親は休息をとることができた。」等といった声が聞かれていた。
- ・子ども、学生、地域住民やボランティアの大人等、多世代が交流することができる場となった。
- ・個別支援対象者で困窮状態にある世帯に声掛けをし、参加してもらうことで、世帯の実態を把握することができた。

○難しかった点

- ・初めての試行的な取組であったため、対象範囲をどこまで絞るべきか悩んだ。
- ・児童を対象とした取組がこれまでにあまり無かったため、児童分野を得意とする職員やボランティアの協力が必要だと感じた。

(総括)

長期休み期間の食事・学習サポート事業は児童、保護者双方に需要があった。また、ボランティア登録者や旭川南高校ボランティア同好会、旭川医科大学学生等のボランティア活動者が活躍することのできる良い機会であり、困窮世帯に対してのアプローチを行うことのできる場にもなり得ることが分かった。